

編集 後記

編集顧問 町田 豊平
編集委員 郡 健二郎

小川 秋實 秋元 成太 村井 勝
藤岡 知昭 大家 基嗣

その店には凜としてこちらを見つめる男性の肖像画が飾ってありました。どこかで目にしたことのある絵でしたので、給仕に聞いてみました。新宿中村屋フレンチレストラン・レガルでの出来事です。新宿中村屋はご存知のようにカレーの名店です。各地に支店があり、レトルトでも販売されているので、「インドカレー」を食べたことのある方も多いのではないのでしょうか。

「高村光太郎の自画像です」と答えが返ってきました。おそらく遠い昔に教科書あるいは何らかの書物で見たのでしょう。店内を見渡すと、目を釘付けにするような絵画、彫刻がなげなく飾ってあります。平日であったこともあり、店は空いていました。上品な店ではありますが、ミシュランで星が付きそうな高級店ではありません。中村屋は老舗なので、おそらく店に通った新進の文士あるいは芸術家が借金の形に置いていったのかと失敬な想像をしていました。もう7年前のことです。

確かに中村屋は大正時代、芸術家が集うサロンであり、高村光太郎も訪れていたそうです。中島岳志著『中村屋のボース』（白水社）には、パン屋として営業していた中村屋がカレーを販売するまでのいきさつが記されています。ラース・ビハーリー・ボースはインド独立運動における急進派の指導者であり、インド総督の暗殺を企てたが未遂に終わり、日本に亡命した人物でした。英国との関係を重んじた政府は国外退去を命じます。右翼の大物がからみ、中村屋店主・相馬愛

蔵が匿うことを申し出ました。ボースは期日の前日に逃亡し、中村屋に身を隠します。もちろん外出もできず、狭いアトリエでの唯一の楽しみが食事を作ることでした。女中に食材とスパイスを買いに行かせてカレーを供しました。そのレシピが今に生きているのです。

ボースは相馬愛蔵の娘・俊子と結婚し、2児を授かります。日英同盟の破棄以後は公の場に登場し、インド独立のための活動を展開していきます。日本の知識階級はボースを支援し、英国によるインド支配を批判します。しかし、構造的な矛盾にボースは苦悩します。日本は中国・朝鮮に帝国主義的支配を行っていたからです。「大東亜」戦争勃発後は、インド独立連盟の代表としてマレー半島に出向いてインド国民軍を指揮します。しかし、結核に罹患し、後継に託して帰国、信州安曇野で療養しますが、病状は快復せず、祖国の独立を見ぬまま58年の生涯を閉じます。7か月後に戦争は終結し、祖国インドがパキスタンと分離する形で独立が実現するのはさらにその2年後でした。

生涯を捧げたインド独立への思い。「インドカレー」を食べながら想像していました。B級グルメめぐり東京版を紹介しますと、古書店街である神保町には特徴あるカレー屋さんが多数あります。エチオピア、カーマ、スマトラカレー共栄堂など、店にまつわる歴史が詰まっていそうな名前ばかりです。スパイスが利いた「店の謂れ」をつい想像してしまいます。

(大家基嗣)

臨床泌尿器科 (第64巻 第6号) (通巻764号)
2010年5月20日発行 (毎月1回20日発行)

定価 2,835 円 (本体 2,700 円+税 5%)

2010 年 年 ぎ め 予 約 購 読 料 41,360 円
電 子 ジ ャ ー ナ ル 関 覧 オ プ シ ョ ン 付 53,800 円
増刊号を含む13冊、税込、送料小社負担

発 行 株式会社 医学書院
代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23
電 話 本誌編集室直通 (03) 3817-5709
(担当: 登・安部)
販 売 部 直 通 (03) 3817-5659・5660
フ ァ ク シ ミ リ (03) 3815-7802

E-mail: rinpi@igaku-shoin.co.jp
振替口座 東京 00170-9-96693 番
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信 (送信可能化権を含む) に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- 医学書院ホームページ (インターネット) は Web <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- 「臨床泌尿器科」のページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinpi/> です。
- 【JCOPY】<創出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(創出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。